

第四五章 大患難

I 一般患難と比較した大患難

一般的な試練や苦難と旧新約聖書に描かれた大患難の特別な時代を区別しないために、これまでに多くの混乱が起こって来た。ヨブ 5：7 やヨハネ 16：33 を見れば、人は患難に会うことが記されている。これは、人類の神に対する反抗と罪のゆえに、また、この世における神とサタンとの戦いから生じるものである。しかし、大患難といえは終わりの時における特別な困難で、キリストの再臨に至るまでの 42 ヲ月のことを指している。

II 大患難についての旧約聖書の教え

申命記 4：29、30 のようなごく初期にまでさかのぼって、イスラエルは後の時代になって患難に会う時に、神に立ち返るように警告されていた。

エレミヤ 30：1-10 にはイスラエルの帰還、患難、回復のときが記されている。

この大患難時代は、ダニエル 9：27 の契約が破られた後に起こる。この大患難はあきらかにキリストの再臨とともに終わる。(ダニエル 7 章) また、ダニエル 11：36-39 によれば、この時代の宗教的特徴として、世界的支配者を頭とした無神論的な宗教が起こる。そして、40-45 節に描かれた大規模な戦いをもって終わる。

III 大患難についての新約聖書の教え

いつ世の終わりが来るのかという弟子たちの質問に対して、キリストはまず一連のしるしをお示しになった。(マタイ 24：3-14) これらは現在において、そのほとんどが成就している。ついで 15-29 節に特定のしるしについて語っておられる。このなかではっきりと、この時期を他の患難の時と区別しておられる。(21-22) この時代のさらに詳しい情報は黙示録 6-18 章によって得ることができる。7 つの封印の一つ一つが解かれるごとに、大きな災害があり、第 7 の封印が解かれた時に、7 つのラッパのさばきがおこる。第 7 のラッパが吹きならされた時、7 つの鉢のさばきが始まる。これらは神の怒りの鉢として描かれている。第 6 の鉢はハルマゲドンの戦いと言われるものである。ここで、サタンはキリストの軍勢に対抗するために軍隊を結集するのである。そして、最後の鉢があけられる。キリストが再臨される時はこのような混乱と破壊と戦いの最中である。

ある神学者が考えているように、この世は段々と向上して行き、徐々に福音によって教化され、そのようにしてキリストに服従するというのはあきらかに間違いで、この世は神の、不信者と神を汚すものたちへのさばきで終わることはあきらかである。